



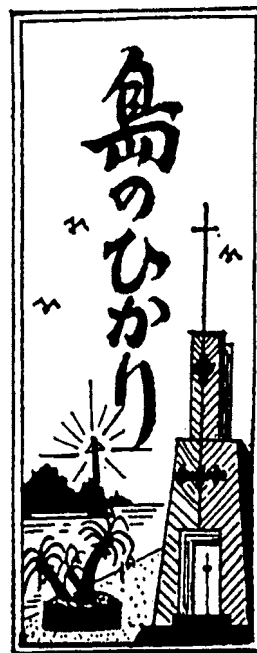
和やかな1日となった合同運動会

中村長八神父様の列福に向けて 青木勲神父様 講話
10月29日(日) 浦頭教会 予定 午前10時35分より

※スケジュールはNo.3に掲載

「島のひかり」ホームページアドレス

<https://shimanohikari.jimdofree.com/>



発行

カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959③0072
印刷・(株)才津印刷所

「ぶいっしょ。」

主任司祭 工藤 秀晃

ようやく残暑厳しい日々も終わり、少しずつ秋の気配が感じられるようになってきました。幸か不幸かわかりませんが、私は夏バテも夏痩せもせず、無事に? 「〇〇の秋」へと突入していきそうです。皆さんはどのような夏を過ごされたでしょうか?

さて、「悪人家族」という話をご存知でしょうか?

「ある町に2軒の家が隣り合 わせて建っていました。一軒の家は7人暮らしでしたが、いつもにぎやかで一家団欒の楽しそうな声が絶えませんでした。もう一軒の家は3人の家族なのに、毎日ケンカが絶えず、面白くない日ばかりを送っていました。どうして隣はいつも睦まじく暮らしているのだろうか、3人家族の主人が、隣の家にそのわけを聞きに行きました。『あなたの家はいつも仲良く暮らしているのに、私の家ではケンカばかりです。どうしてなので

しょう?』すると、隣の家の主人は言いました。『それは、あなたの家が善人ばかりの家だからでしょう。それに比べて私のところは、悪人ばかりの家だからなんですよ。』その意味が理解できないので、3人家族の主人はさらに聞きました。『どうしてもよく分かりません。悪人ばかりの家だったら、余計にケンカが絶えないはずですし、逆に善人ばかりだったら仲良くするはずですよ。』『いえ、そんなことはありません。たとえば、夕飯のおかずが少なく、ご馳走じゃないとします。そんなとき、妻がこんなものしか作れなくてスミマセンと言ひ、私は自分の稼ぎが少なくても悪いなと言ひ、両親はいやいや、私たちがいるから、おかずが少なくなつて申し訳ないと言ひ、子どもは学校の帰りが遅くなり、お母さんの手伝いができなくなつてごめんねというんです。つまり、みんな自分が悪いと思つているので、ケンカしようがないのです。それに対して、あなたの家ではおそらく、みんな自分は善

人だと思っっているから、それぞ
れ自分の非を認めたがらないの
でしょう。』それを聞いて、訪
ねてきた主人は返す言葉があり
ませんでした。」

私たちは日々の歩みの中で、
様々な自分と出会います。その
中には、情けない自分、格好悪
い自分、怯える自分、逃げ出し
たい自分、見たくない・認めた
くないような自分との出会いも
あります。しかし、そういった
自分を受けとめることができた
時、私たちは本当の意味で他者
の弱さや足りなさをも受け入れ
ることが出来るようになるのか
もしれません。そして、お互い
にその弱さや足りなさを補い合
いながら、共に支えあい心穏や
かに生きて行くことができるよ
うになるのかもしれない。

さて、あなたは、「善人」で
すか？それとも「悪人」ですか？

聖堂内カーテン クリーニングしました

さわやかな風をどうぞ！

連日蒸し暑い日が続いている
中、小中学生の黙想会が福江教
会で行われていた頃でした。

協力者と知恵を出し合い聖堂
内すべてのカーテンをランド
リーで洗う事となりました。

使用した白いネットが灰色に
染まるほどよく働いてくれた
カーテン。洗濯後、すぐにカーテ
ンレールにひろげて干しました。

翌日平日ミサの方々に束ねて頂
くというお手間をおかけするこ
とになりましたが、ご協力頂けま
した事に感謝致しております。

カーテンを洗っただけです
が、留め紐一本にも共に時を重
ねて私達の教会をそっと見守っ
てくれていたのかなとカーテン
とともに心の洗濯もできたよう
な良い体験をさせて頂いたと
思っております。

残暑が過ぎ秋風が聖堂内に入
るのはまだまだ先の事でしょう
が、皆様に素敵な訪れがありま
すように。

「聖母の被昇天」のお祝い前 奉仕の心あふれる(8/6)

ミサ後、地区委員会のお声かけ
で、お祝い前の最後の奉仕作業を
行った。今回はいつもの草かり、
草とりプラス、聖堂・神羊館の
窓ふきなどと仕事は多い。

全世帯から有志の皆さん、今
年の夏は特に暑いそんな中、手
際よくみるみる綺麗になり、三
度目の方もいらして、マリア様
もお喜びのことでしょう。

私達にとって教会は、最も大
切な場所。キリストの愛を実感
でき、皆が心をひとつに結ばれ
信頼し合い、神に祈り、感謝を
する場所、大きな家族の集合場
所、「父の住まい」。感謝する心
を奉仕することでは受け取っ
てもらえない!!教会ではだれも
が何かの役をし働く。庭に花が
咲き、シスターは祈り、典礼に
日々の感謝の気持ちをこめ、出
来ることをする。奉仕作業をす
る人の思いに応え、帰りには「心
に平安」がおとずれる。帰宅時
のニッコリした笑顔でそれがわ
かる。おつかれ様でした。

秘

跡

◎ 永遠の安らぎを

ドミニコ 木口 賢一

四十五歳 浦頭

七月十五日 永眠

カタリナ 富上 静枝

八十歳 浜泊

七月十九日 永眠

島のひかりありがとうございます
ました。お忙しい中、本当に感
謝しております。長びくコロナ
のためどこにも出られず淋しい
ですね。皆様お元気ですか。御
無理なさいませぬように御家族
の方々にもよろしく。お会い出
来る日を楽しみにしています。

長崎市 Sr赤尾スミエ

“ありがとう”

次の方々より多額の御寄付を
頂きました。感謝いたします。

名古屋市 土居 照代様

愛知県 大川のり子様

福岡市 坂本 砂子様

中村長八神父様 列福に向けての講話

十月二十九日

青木勲神父様

―場所― 浦頭教会

題 日伯を結ぶ心の懸け橋

中村長八神父

内容 ブラジルでの偉業と

「列福調査の運び迄について」

青木神父様プロフィール

一九七七〜二〇一一年 宣教師として奉仕。日伯司牧協会会長時代に中村長八神父の列福調査開始。

二〇一一年 帰国
現在 暁星小学校スクール
チャプレンとして勤務。



☆十月二十九日(日)スケジュール

午前

九時 ミサ

十時十五分

工藤神父様あいさつ

十時二十分

浦頭信徒 木口

中村長八神父様生誕からブラ

ジルに到着するまでの話し他

◎十時三十五分〜(約五十分)

青木神父様 講話



1938年ローマ法王ピオ十一世より日本人最初の功労章を受賞した中村長八師(右)と国民使節として同章を伝達した海軍少将山本信次郎氏

写真説明 中村長八神父様が

ローマ教皇庁からグレゴリオ大褒賞を授与された時のもの

下五島合同黙想会

夏休み期間の七、八月に小学生・中学生・高校生を対象とした下五島合同黙想会が福江教会にて行われました。浦頭小教区の小学生・中学生は初めに自分の地域の各教会(浦頭、堂崎、宮原、半泊、大泊)の歴史を模造紙に文章や絵でまとめました。

その後、下五島の地図上に福江教会がスタート・ゴールとなり、点在する各教会が一周で繋がれたボード上ですごろくゲームが始まります。サイコロを振って止まった目により担当教会の神父様から出題されます。各教会の子供達が作成した歴史をもとに、正解すればスタンプを貰え、多く獲得する事を競いました。

子供達は楽しみながら、改めて自分の教会やほかの教会の理解を深めたのではないかと思います。



ゲームの様子(中学生)



まとめ終わりました(小学生)

楽しかった 侍者旅行

白い衣である侍者服を着て、ミサの時、神父様に付き添い奉仕している小・中学生。

毎年楽しみにしていた侍者旅行もコロナの影響で実施できていませんでしたが、今年は四年ぶりに七月二十七～二十九日の二泊三日で大分へ行ってきました。



うみたまごにて

猛暑で心配しましたが、遊園地での子ども達は全く関係ありませんでした。次から次に絶叫系アトラクションを制覇する子ども達にビックリしながらも、みんなの笑顔が印象的でした。帰りの車内では首が折れる？くらい爆睡。今回は中学生も参加し、遊園地や水族館、ホテルなどで小学生を世話してくれました。ありがとうございます。

バスを運転していただいた深井さんをはじめ、引率していただいた工藤神父様、お世話になった方々、お祈りして下さった皆様に感謝いたします。

信仰教育委員会 鍋内秀喜

侍者旅行の思い出

二年 赤およしぎ

七月二十七日～七月二十九日に大分までじしゃりょ行に行きました。一ばん楽しかったことは、きじまのゆうえんちに行ったことです。その中でも、ジェットコースターがすきでした。いろいろなジェットコースターにのった中でこわかったけれど、木のジェットコースターがすきでした。六万本の木ざいでくみ上げられていると知って、すごいなと思いました。

はじめてのじしゃりょ行が楽しい思い出になりました。じしゃをがんばって来年もみんなとしんぷさまと、じしゃりょ行に行きたいです。



鍋内 心優

私は、侍者旅行で、たくさん思い出に残る経験をさせていただきました。

一日目は、うみたまごという大分の水族館に行きました。初めて見る生き物ばかりで、とても楽しかったです。特に、セイウチのショーが素敵でした。

二日目は、城島高原パークという遊園地に行きました。みんなでたくさん種類のアトラクションに乗りました。小学生たちも、「あのジェットコースターに次は乗ろう！」などと言ってとても楽しそうでした。またいつか行きたいです。その時は、侍者旅行で乗っていないアトラクションに乗りたいたいです。

私たちが、安全に楽しく侍者旅行に行けたのも、神父様やたくさんの方々のサポートをして下さった方々のおかげなので、感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。

奥浦慈恵院の歴史⑤

奥浦慈恵院院長 Sr 入口 里子

「小部屋」の創立の発端は、間引きの対象となった乳児の救済でした。そのため当初の収容児は会員たちによって見つけ出された乳児でした。次第に対外的な仕事のために下五島各地域に足を延ばしていた会員たちの手によって、色んな地区から子どもたちは集められていきました。しかし、捜しだされた乳児を救済するだけでは偶然的な機会にたのむ場合が多く、彼女たちが望んでいる「より多くの生命の救い」には程遠いものがありました。そこで会員たちは直接出産前・後を通して援助を与えることの出来る助産婦の仕事に目を留め、明治28年会員一人梅木マツが助産婦の資格を取得しました。自宅出産の時代、出産の数も多く、しかも夜の出産が殆どで、道路、交通事情の悪い頃なので、とても大変な仕

事でした。会員らは、いつでも出かけられるように帯を解いて休むことはなかったそうです。

この仕事は①出産前の指導によって墮胎を防ぐため②間引きせざるを得ない事情のある妊婦には、出産させて、すぐに養育院が養子としてその乳児を引き取るため③瀕死の状態で出生した乳児には洗礼を授けて罪のゆるしを与えるため、と言うのは洗礼を重視していたキリスト信者たちは罪のゆるしを受けないまま乳児が死んで行く状態に心を痛めていたのです。この救済事業が、どんなに小さな子どもにでも神の愛が注がれているという確信に基づいていたからです。

収容児の出生地を昭和10年2月から昭和24年4月までの「洗礼簿」を参考にしてまとめてみると（洗礼簿が入所時の記録となっている）212名中、福江島内で142名となっています。その他合わせて18名。県外では熊本県と佐賀県から4名となっ

ています。このことから、福江島内からの収容児が70%を占め収容児圏が下五島であることが分かります。これは、上五島には奥浦慈恵院と系統を同じく鯛の浦養育院（現在の希望の灯学園）があったためです。また、五島以外の地域、県外からも10%弱が収容されていることから、奥浦慈恵院の事業がある範囲において知られていたことがわかります。



養育先については、明治期から明らかに記録に残っているのは178名分です。養子先は全てキリスト信者の家庭であり、司祭たちの推薦によって養子縁組が成立していました。会員たちは、収容された子どもたちを「神様から任せられた責任」の自覚をもって養子に出したのです。そのため、養子となった後も、行商などの巡回によって交流を保っていました。



中村長八師に学ぶ(5) 『明るさは宣教の力』

最近、日本の教会のために尽力した方々が引退すること、現役だった司祭が逝去することが相次ぎました。先日亡くなった司祭は高齢ながら手術後、回復して働き始めたばかりでしたが持病が悪化して帰らぬ人となりました。私の上司の大司教様も亡くなった神父様もイタリア人ですが根づいた信仰と共にユーモアのある方々でした。とても学ぶことの多い生き方でした。

ところで国を離れて働く司祭、宣教師たちに欠かせない心構え、徳、精神は何だと思えますか。

現在、外国の神父様方や司教様方と接する中で感じるのですが、ユーモアと明るさ、そして、前向きに生きることがとても大切だと感じています。

文化、言語、気候そして食物が異なる中で人々を導くには忍耐力もいります。しかし、暗い

気持ちになると困難を乗り越えられないし、キリストを証しすることもできないでしょう。

ユーモアで他人をさわやかに

する能力、徳はとても大切です。

中村長八師の手紙の中に性格の明るさとユーモアを感じるのとができませんので紹介します。

◎昭和七年二月十五日

「昨年は私も巡教に四ヶ月間を費やしました。その結果は年の告白者は四百余名、受洗者は百余名、外教者への講演は三十余回でした。そのうち、バイベン植民地には八年前から教話を続けていましたが昨年は一日に四十余名、次には十余名受洗者が有りました。誰とて助手もなく私独りにて万事を捌くので実に柄杓棒振り振りました。然し精神は爽快なものでした。

目下、片っ端から戸毎に踏込んで夜間伝道をやつて居ます。之を土龍布教と自称して居ます。」

※柄杓棒振るはあわてふためく

(お告げのマリア会 木口直恵)

椎の木山のマリア像 二十五周年



濱口一族が椎ノ木山の断崖に建立したマリア像。像が出来て四半世紀たった事もあり、長崎在住の濱口長一さんから文章と写真がこちらに送られてきました。以下、内容を掲載させていただきます。

「故郷は現在無人の荒野となつていますが、先祖や親世代を回顧するとき、江戸幕府によるキシタン弾圧から逃れ、黒崎郷(長崎彼杵半島の外海地区)」か

ら椎の木山に居ついたもので、移住後の先代の苦勞は想像を絶するものでした。唯一の慰めは周囲を気にせず神に祈ることが出来たことで、苦勞を乗り越えることが出来たと思つています。……先祖のご恩に報いるため濱口一族はマリア像を建立。以来、通り行く舟々と先祖の地を見守つてきました。そして、そのマリア像も、そのそばの「島の小島」にあるライオンそっくりのライオン岩から見守られているんだらうなあと、語り合っています。」



マイホーム 完成おめでとう

浦頭公民館から中村長八神父様まきの木に向かう途中に、九月に完成した新築の家が見えます。住民の方は川口広平・瑞希さん、幼い子供二名の若い四人家族が住まわれています。完成まで色々な事を自分たちで決めてこられ、思い入れ作りの場所もあったとか。新居の住み心地はいかがでしょう？

職場・学校・教会まで身近な住まいとなった御家族のますますの活躍をお祈りします。



タヤけマラソン

四年ぶり開催となった第三十七回タヤけマラソンが八月二十六日に行われました。オリンピックに出場された富士加代子さんをゲストランナーに五島港公園をスタート。二千名ほどのランナーは思い思いに走る中、笑顔が数多く見られました。選手だけではなくボランティアの方々も笑顔で協力しており、選手も島民も再び開催される事を待ちに待った大会であったと思えました。



ふる里だより

幸運の花咲く

奥浦小学校の子供達が修学旅行中に発見したニョキニョキと伸びる不思議な形をした植物。それと同じものがなんと前田川の岸辺にも。見た小学五年生、六年生、先生達が調べ始めた。専門家にも教えてもらい、その植物がリュウゼツラン(竜舌蘭)アロエにも似た根本の葉が竜の舌にも似ている事がその名の由来。五十年とか七十年に一度しか咲かない、見ると幸運をよぶと言われる黄色の花。

下から上へ順に咲いていって、一ヶ月ぐらい咲いていた。又、今度いつ会えるかなー。



どうやって出来たんだ

五島!

(子供教室・ビジターセンター訪問)

リニューアルしたあぶんぜビジターセンター。昨年認定されたジオパークの拠点として、五島の地質・自然・文化について興味深い資料がいっぱい。子供達は係員の詳しく面白い説明に興味津々、五感一杯広げながら聞きいっていました。又、椿の廃材を利用したチップに電熱ペインで焦がして描く絵作りやストーンペイントにも夢中に取り組んでいました。



最後の奥浦小中市民 運動会

コロナ禍で中々行事などが出来ず、数年間半日の時短開催されてきた運動会でしたが、コロナウイルスも5類になりようやく規制も緩和されたという事で、昼食込みのフル開催での運動会となりました。

残念なことに来年度から奥浦中学校は、福江中学校との統合の為、閉校が決まっています。久々のフル開催が中学生最後の運動会になってしまいました。小、中学生の皆さんたちは、一杯の元気な姿を見せてくれました。

揃った入場行進から始まり、小中学生による徒競走。必死に走る子供達を、これまた必死な声で応援する地域の皆さん、自然とテンションが上がるのは言うまでもありません。ついには興奮しすぎて息が上がっている方も居られた気がします。

その後も、小学生による可愛いフリフリダンスの玉入れや、中学生の大縄跳びや障害物競走更に地区対抗の競技も行われ会場は大盛り上がり！

その後も小学生による踊りエイサーが披露され、キリッとした表情に思わず拍手が上がりまします。更に中学生の踊りソーランが披露され、素晴らしい歌声と気合の入った創作ソーラン、カメラのフラッシュが凄いことに：

午前の部が終わり昼食タイム、こういう時のお弁当は美味しいものです。お酒を飲まれている方もチラホラ：

午後からは綱引き競技、生徒達と地区対抗の部と開催され、白熱した綱の引き合いが見られました。更には異種競技競争や紅白対抗リレー、運動場のあちらこちらから応援の叫びや雄叫びが聞かれました。

大きな盛り上がりを見せて運動会も閉会式に移り、最後の挨拶が終わって、奥浦中学生に

とっては最後の運動会が幕を降ろしました。生徒たちの「僕たちは奥浦が大好きです！」の声に耳に残っています。

中学生が居なくなり寂しい気持ちではありますが、まだ小学生が奥浦には残っています。これからの故郷の為、地域の為、子供たちの為に、小学校の学び舎は残していきたいと思われ運動会となりました。



ハイ・チーズ(小中学生全員集合)

編集後記

今年の夏は特別に暑かった。燃える様な暑さに、昼間は外の仕事は、ちょっとむずかしい。それは年寄りの私達の事であって、会社勤めの人にとっては、地獄の様な日々だったと思う。

島のひかり編集も少数の部員で頑張っているが、中々、前に進まない。

それに奥浦中学校が、来年度より閉校となる。それにちなんで、中学校記念誌作成に取り組んでいる。

福江の学校に通学するのだが、はっきりした通学方法は決まっていらないらしい。

とにかく頑張るしかない。

竹山 要司

